

授業改善書

科目名	文化人類学（金曜1限）
担当者	西澤秀行

授業の概要

文化人類学がひとつの学問として誕生してから、一世紀あまりしかたっていない。しかし、文化人類学が今日的な意味での学問分野として成立するまでには長い歴史があった。この歴史的経緯を振り返るとともに、文化人類学の確立に多大な影響を及ぼした学者たちの業績と、彼らが唱えた理論を各回の授業のなかで講義する。とくに、文化人類学はアメリカ合衆国を中心に発展したため、このコースでもアメリカにおける文化人類学を中心に据えていきたい。（学期開始時に配布したコース・シラバスより転載）

授業の問題点

1年生メインのコースとしては、指定した教科書が難解であり、事前学習（その日に学習する単元を前もって読んでくる）を困難にしていたものと思われる。また、事後学習（その日に学習した単元を後日読み返す）に関しても、授業内容を理解・確認する意図をもって各自に取り組みさせるには、やや難し過ぎたかもしれない。こうした理由により、多くの学生が定期試験前に、十分な試験勉強をしていなかったようである。

（コロナ禍ということもあり）授業中に学生に発言させる機会をほとんど設けなかったため、私からの一方的な講義になってしまった。そのため、学生の興味関心に十分な配慮を払うことができなかった。

学生の授業満足度

「授業内容に興味や関心を持ちましたか」および「テキストなどの資料は適切でしたか」の評価点が、上記の問題点を反映しているといえる。

一方で、シラバスに示した授業計画に沿って毎回授業を行えたことは、学生からの高い評価につながっているようである。

授業改善の課題と方策

今後、このコースを同様の授業内容で開講する場合、1年生（2年生）にふさわしいレベルの基礎的な教科書を選んでいく必要がある。市販の日本語書籍で教科書として適切なものがないのも事実で、私が授業用プリントを作成して、都度、配布することも検討していきたい。

（コロナ禍が終息したら）当初の授業計画案で述べたように、学生の積極的な発言を促す授業（グループ・ディスカッション、グループごとのプレゼンテーションなどを取り入れた授業）を展開し、こちらからの一方的な詰込み型授業を脱却することを目指したい。

その他

とくになし。

授業改善書

科目名	比較文化論（金曜2限）
担当者	西澤秀行

授業の概要

本コースは文化人類学のアプローチを用いて、世界各地で見られる様々な文化を比較・考察しながら、文化そのものについての理解を深めることを目的としている。文化を観察するには幾通りもの方法があるが、ここでは文化人類学者たちにより研究されてきたテーマに沿って、いくつかの事例を取り上げながら講義する。あわせて、学生みなさんの興味関心あるテーマも積極的に取り上げていきたい。（学期開始時に配布したコース・シラバスより転載）

授業の問題点

学生の自学自習の利便性を考え、とりあえず「教科書」として本を一冊指定したが、その本自体の内容が本コースのテーマとうまく一致していたとは言えず、かえって学生たちを混乱させたかもしれない。こうした理由により、定期試験に向けた勉強で多少苦勞した学生もいたと思われる。

くわえて、（コロナ禍ということもあり）授業中に学生に発言させる機会をほとんど設けなかったため、私からの一方的な講義になってしまった。そのため、学生の興味関心に十分な配慮を払うことができなかった点も問題であったと考えている。

学生の授業満足度

「テキストなどの資料は適切でしたか」の評価点が、上記の問題点を反映していると思われる。

他方で、シラバスに示した授業計画に沿い、毎回授業を実施してきたことは学生からの高い評価につながっているようである。

授業改善の課題と方策

授業計画に適合した初級編の教科書を選ぶことにくわえ、自己学習用の資料を一層充実したものにしていければと考えている。

また、（コロナ禍が終息したら）当初の授業計画案で述べたように、学生の積極的な発言を促す授業（グループ・ディスカッション、グループ・ワーク、グループごとのプレゼンテーションなどを取り入れた授業）を展開し、こちらからの一方的な詰込み型授業を脱却することを目指していきたい。

その他

グループ A、グループ B に分かれて授業を実施することになったため、コース全体として一貫性を保つことが難しかった。これまでに扱ったトピックに「プラスするかたち」で講義しようとしても、学生によっては、知識を持っている者と、そうでない者がいる状況が生まれてしまった。